

feature interview

DJ KOYA

常にUSシーンを意識し、独特のグルーブとこだわりの選曲を毎週火曜日の「RED ZONE」で提供しているDJ KOYA。プレイスタイルの近況などを熱く語ってもらった。

■「RED ZONE」は来年5周年という節目を迎えますが、常に心掛けていることはありますか？
始めた当初も今も、「RED ZONE」に対する気持ち的のところや取り組む姿勢っていうのは、最初も今も変わらないつもりでやっています。プレイの部分では、フロアには合わせるんだけど、引けない部分を持ってることかな。どんなにフロアが盛り上がる曲で、それが今の日本でのヒット曲だとしても、そこまではオレは入れないっていう自分の境界線は持っています。ここから先のエリアはいくら流行ってても行きたくないっていうものは沢山ありますよ。ただ「アゲればいい」とは思っていないから、その中に自分の色を入れていきたいのは凄くあるし、アゲアゲでずっとやるってのはオレのプレイだと不可能だし。ただ、アゲての方がお客さんが盛り上がるってのも解るから、その葛藤ですよ。いいものはいいから、絶対に提示してあげなきゃいけないものもあるし、フロアばかり見ても、結局は自分の首を絞めることになるんですよ。今それをやると、来年はもっと苦しくなると思うし。例えばHARLEMじゃなく、たまにゲストで入るクラブで凄く感じるの、単発で入ると普段の積み重ねでいかにヒットする曲ばかりかけちゃってるとのが伝わってくるんですよ。「もうこれは飽きてるだろ」とか「まさかこれで盛り上がらないよ」っていうので、そのままアゲちゃったりするし。DJ AMも言っていたけど、一生涯考えてレコードDIGしてとか、お客さんはそこまで解ってくれないと思うけど、かと言って解ってないからダメっていうわけにもいかないし。そこで自分のバランスを取るのが凄く難しいところですよ。

■「RED ZONE」は火曜日。他のイベントの週末にゲスト出演したりする中で、「RED ZONE」と他のイベントとの違いは感じますか？

やっぱり「RED ZONE」はホームグラウンドなんで、自分の気分をある程度反映させてやりたいなって思ってるんですよ。でも、他のクラブにいきなりゲストで入った時に一発目からは出来ない。「RED ZONE」のように積み重ねがあってできるところって沢山あるし。1時間位の短い枠の中では同じようには出来ないんですよ。

区別してはるわけではないけど、その決められた時間とお客さんのバイブスの中で盛り上げなきゃいけないとなると、HARLEMとは同じことは出来ないですね。HARLEMはホームな分、色んなことにトライもできるんだけど、他のクラブではトライとかは怖くて、それをやったところで何の意味があるんだろうってのは凄くありますよ。全く無駄だとは思わないけど、お客さんからしてみればそんなに深いところ知らなくてもいいだろうしね。だから、その差というかギャップをDJなりにどうやって埋めてあげたらフロア的にも自分の的にも気持ち良かったり楽しかったり出来るのかってのは常に考えてます。

■地方はどうですか？

そこがまた難しいところなんですけど、ぶっちゃけそんなに変わらないかな。昔はよく「選曲が解ってねえ」とか言っていたけど、HARLEMはホームで、都内でもそんなにしょっちゅうやってないところをアウェーだとして比較すると、HARLEM以外は地方も東京もそんなに変わらないと思いますよ。ただ、地方のお客さんは誰がゲストで来るかってのが東京よりもっと重いじゃないですか。だから、聴く耳をもってる人がいるんですよ。前は聴いてないかな、解ってないかなとか思ってたんですけど、今は逆に反映されてる。「この人がやってるからいいんだろ」って感じで聴いてくれるけど、東京はヒドイところに行くときそれすらないし。ただクラブに来てただけっていう風

潮があるんで。だから、一概に地方はダメとは言えない状況だし、聴く耳を持つてるといって「音楽を聴こう」というお客さんが多い所がいいと思う。逆に、いいお店でも音楽を聴く意志のあるお客さんが少なければ、もどかしい部分も自分的にはあるし。

■「RED ZONE」では、かなり『つつこんだ選曲』をする時もありますよね？

そうですね。そのつもりでいるし、今後もそういうふうにしていきたい。例えばSOUTHのドロドロしたのとか、HARLEMでも他のレギュラーDJがやってないようなのをオレはやって行きたい。ドロドロしたものでもアゲられたらいいと思うし。いいものはいいものとして自分なりにいいプレイをするつもりでいるから、それはちゃんと聴く耳をもっと聴いてもらいたいってのはありますよね。それは自信を持ってやってるわけだし、間違いはないと信じてやってることだから。極論、間違いとか正しいとか無いじゃないですか。例えばオレはNYが好きだけど、NYで全くかかんないものが日本でかかっちゃダメだってことはないじゃないですか。だからそこが難しい。定義をどこに置かっていうか、その人の価値観もあるんだろうし。オレはNYが好きで誰が聴いてもNYが一番近いようなプレイをしてても、イヤだっていう人はイヤだって思うだろうし、難しいですよ。正論がないし。だから、踊らせちゃったDJが勝ちみたいな風潮があるのは解るんだけど、先を考えたらずと不安も出てきますよ。

インタビューの度に毎回言ってますけど、いい意味でも悪い意味でも音楽をとことん聴く人が少なくなってますよね。自分も歳取っちゃったからね(笑)。そういう深いものとかを追い求めるのもあるんだろうけど、例えば自分の後輩のヤツらと自分のその歳の頃を比較するとどうなんだろうって考えたりするし、DJとして100伝えたいとしたら、60位しか伝わってないかなって気もしますよね。だから毎週葛藤ですよ。でもポジティブに考えれば自分を高めて行けるという自分も成長して行けるってのもあるでしょうけど。エゴばかり言っていられない、自分の思ってるようにばかり出来ないから「じゃあどうすんの？」って考えて勉強させてもらってるってのもあると思うし。

■そういう中で、海外に行ったり海外のDJと一緒にやったりすることで、また違う刺激もあるんじゃないですか？

HARLEMではよくやらせてもらってるけど、外タレとのコラボレーションってのはオレの一番の糧みたいなもんなんで。それで一番成長させてもらって、体感してますね。いつも、高いハードルを越すというか、難しい局面にしてもらってるからこそ自分も勉強できてるって思ってますよ。

■そういうところから『Scratch Live』も取り入れたんですか？

そう。Scratch Liveに関しては、自らいいて思ってた取り入れたわけじゃなくて、拾ってきた情報じゃないですか…。海外のDJとか見て、特にStretchとかそういう人を見て始めたわけだから。今の一番大きな変化と言ったらそこですよ。

■実際取り入れてみて、プレイ的にいいところ、悪いところはありますか？

悪いところは、正直、音の善し悪しだけ。でもそれは悪いところではなくて、自分の勉強不足だったのかもしれないけど、誰でも通る道なのかなって思ってますね。それ以外はいい事づくめかな。録音状態だけですよ。苦労したのは、最初はユーザーが周りに誰も居ないから、「どうすんの？」から始まるじゃないですか。Stretchが使い



始めたのが1年位前だと言ったから、オレは半年位経っても使い方も怪しくて…。でも、知識を吸収するのが大変だっただけで、実際プレイがやり難いとかは全くないですね。実際にアナログを触ってるのと同じ感覚なんで。だから、あんまり皆には先入観を持って欲しくないですよ。「コンピュータでやるんですか？」みたいなことを言う人も居るくらいだし、オレも1年位前まではそういうふうにしてたわけだから否定は出来ないけど、アナログがデジタルになったわけでもないんで、それを解ってもらいたいですよね。CDJはもともとイヤだと思って使わなかったんですけど、全然違うものでしょ。手元だけでも違うし、擦れるようになって近くなったのかもしれないけど、根本的に全く違うと思うんですよ。そういう点で、Scratch Liveに関しては非難するところはないと思うんですよ。

オレも最初は「ジャケットで選んでからさー」とか色んなこと言ってたんですけど、自分で打ち込む時に覚えるし、分かんなくなることは無いと思う。自分で管理すれば難しいことは何もないと思うから、皆に使ってもらいたくなって思う。ユーザーが増えた方がユーザー同志で話せる細かいことも増えてくるだろうし。今はまだ、参考にするのは相変わらず海外のDJだったりで、早めに皆に使って欲しいですね。ちょこちょこ皆が「買う、買う」って言い出してるけど、それも進歩だと思いますよ。最初オレが買った時には誰もそんなこと言わなかったし、そういう人が出てきただけでちょっとは変わったのかなとも思います。

■今はどこでプレイするにも『Scratch Live』を持って行ってやってるんですか？

ほとんど使いましたよ、使えないところは無い。ただ、横浜とかだと、早い時間に行ってセッティングして、一回戻ってまた行ってって、結構ハードじゃないですか。だから横浜は使ってないんですけど、都内は早い時間に入ってセッティングして、って形をとってます。地方もそうですね。着いて箱チェックに行く時にそのままセッティングしちゃうんで、全然問題無いですね。だから、そこだけかな、イヤなところは(笑)。そこが面倒くさいですね。でもそれは変えられることじゃないんで(笑)。とにかく荷物は少なく済むし、いいことづくめですよ。こんな変化って、ターンテーブルを新しく買ったくらいの変化だったから、そう考えると「生きてるうちにこんな変化が起こるのかな？」くらいの革命だったんですよ。「また起きてこれ

で出来るんだ」という新鮮な気持ちっていうか、嬉しいというか楽しいというか、子供みたいになっちゃいましたね。それに、音を入れる時に聴くことになるから「ああ、こんなのもあったな」とか気付くこともあるし。フレッシュですね、全てのことが。「また今日もこれで出来るのか」という心の変化ってのが凄くありましたね。DJを始めた頃の感覚に近いかもしれないですね。オレの時代は「ターンテーブル持ってるぜ」くらいの時代だったんで、そういう優越感とかも近いですよ。いろんなことをいつも吸収してるつもりなんですけど、久々の衝撃でした。

■アナログを買わなくなるんじゃないとか、誤解している人たちが多いと思いますが、

それはホントに誤解ですよ。オレは絶対にアナログからじゃなきゃ録音しないし、だからこそアナログが要らなくなるなんてこと絶対に無い。ただ2枚買いはなくてもいいものが増えるとは思いますがね。DJだったら解ると思うけど、レコードは消耗するから、ヘビーローテーションのものとかクラシックのものとかは2度も3度も買い換えることはあるけど、それはしなくてもよくなるかもしれない。けど、アナログを買わなくなりました、とかいうのは今のこのスタイルが続く以上、絶対に無いんだよね。録音状況にも問題が出てくるんで。だから、オレの中でアナログが無くなることは無い。一生涯懸命探して買って来たものをターンテーブルに乗せて回せるって喜びは無くなるけど。録音するための道具になっちゃうかもしれないけど、でもアナログが無くなるとは思わないし、コレクションしてることも充分大切なことですよ。だから、心配することはないですよ。スタイルは変わらないんで。ただ、パソコンに入れてるだけだから、ノートパソコンがレコバックなんだよ、ってことですよ。だから、皆もアナログから入れて下さい。

■最後に、メッセージをお願いします。

とりあえず、色んなことに興味を持って下さい。それがクラブ遊びにしても、機材にしても、何でもいと思うんで。色んなことに興味を持ってそれにトライしていくことが大事だし。「RED ZONE」に関しては、平日なのでなかなか来れない人も多いと思うけど、僕のこういうスタイルを見ても何でもいんで、是非足を運んで下さい。☺